

昭憲皇太后

明治天皇の皇后

【誕生】

嘉永二年四月十七日

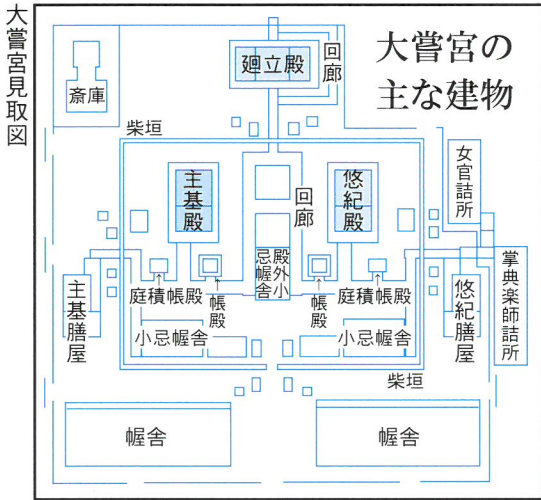
【お印】

若葉(わかば)

【ご陵所】

伏見桃山東陵

一世一代の仮殿「大嘗宮」



大嘗祭の中心的な儀式を行うために新設される古様な宮殿を「大嘗宮」といいます。大嘗宮は、一世一代の仮殿として非常に短期間で造殿されること、また大嘗祭後には取り壊されることが定められており、神宮へ遷宮のように二十年の月日に耐えうる堅固で美しい白木の造りではなく、杉皮を剥がめまま用いる黒木造りの簡素な構造です。東西二十一丈四尺(約六十五m)、南北十五丈(約四十六m)を測って宮地とし、まわりを柴垣

で囲み、中心から半分に分けて東を悠紀院、西を主基院とし、それぞれに悠紀殿・主基殿を設け、大小三十七ある建物は全て回廊で結ばれます。大嘗祭当日の夕刻、天皇陛下は迺立殿にて潔斎をされ、純白の生絹の御祭服にお着替えの後、迺立殿より悠紀殿にお出ましになられ「悠紀殿供饌の儀」が執り行われます。続いて翌深夜より未明にかけて天皇陛下は迺立殿より主基殿にお出ましになられ「主基殿供饌の儀」が執り行われます。

日にみたび 身をかへりみし
いにしへ
古の人のこころに
ならひてしがな
昭憲皇太后

神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国ぶり」

